

アマチュア無線による相模川流域非常通信ネット（仮称）構築について

J Q 1 Z G H 会長 佐藤修一

巨大地震発生時の二次災害として、津波、火災、放射能物質等危険物の流出、土砂崩れ（地すべり）、その他、が考えられます。

神奈川県中央部の相模川流域（中津川等含む）における二次災害として上流の人造湖（相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖）を堰き止めているダム（下図参照）に想定外の力が加わった場合に下流域が被災する可能性があります。

そこで、通信インフラが倒壊、断線、停電等のダメージを受けて通常の通信手段が使用不能（ふくそう含む）になった場合にアマチュア無線（流域各局及びJ Q 1 Z G H）による情報収集（ダムの状況、水位上昇、その他）を行い、必要な情報をFMコミュニティ放送（FMカオン）により流域住民（ほぼFMカオン聴取エリアに等しい）に提供する。

